



140
characters

textband



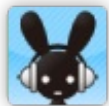
@phonda

8 前作、『寿・女学院』からの正統進化。CGやスタントを一切使わないという一貫したこだわりのアクションシーンは今回も◎。ただ、主人公を演じたチョ・ヒョリン（新人）の日本語が堪能とは言えず、ストーリーの肝心な場面でセリフが聞き取れない事が多かったのでマイナス2点。クオリティは高い。



@cheapeer

7 巨匠“サトウのらり”ワールド全開でシリーズのファンは十分に満足できるはず。流石はDOD(ドリーム・オン・デマンド)プロダクツ！毎回作り込みが繊細ですなあ。シリーズ定番の上空30mからの半裸バンジーももちろん収録！サウンド担当はあの小村哲史。ファンを選ぶ姿勢はご愛敬ってことで。



@kfnks

10 本作のため1年間ジムに泊まり込んだというチョのスタントはさすがの一言。特にマイク・タイソンとの20分ノーカットの対決はアイドル映画の枠を大きく飛び越えた屈指の出来映えと言える。筋肉が大きくパンプアップしたチョの肉体の迫力は凄まじい。宣伝文句の「体脂肪率2%」は伊達ではない！



@osicomman

3 高崎カン多監督の悪い癖がこれでもかと観客にふりかかる、怒涛の90分。ただ、氏のキャリアの集大成として考えれば、納得の出来ではある。最高傑作と言っても過言ではない。問題は、正月映画として大々的に宣伝をした配給会社にある。なぜこの映画を選んだのか、理解に苦しむ。ファンなら10点。

『Escape from Mandragora』 The Death Helmets (音楽)



@phonda

9 世界中のフェスを席卷中の彼らのフル5作目。すでにオリジナルメンバーは1人もいないが、今回初めてドラムが加入したことにより、前衛アート風だった過去の作品よりポップさが増している。色モノになりがちな和のテイストもセンスがよく、鬼才プロデューサー、オズ・ムルクスの手腕が光る。必聴！



@cheapeer

9 実に16年ぶりとなる新譜を引っさげてデスヘルが帰ってきた！前作発表直後に6名脱退、9名加入という大胆なメンバーチェンジを経た本作は和のテイストを前面に押し出した内容。34曲目「okome rave」は必聴！初回特典として先行シングル「muscle gay-sha」のPVつき！



@kfnks

9 16年ぶりの新譜はCD5枚組の超大作！リードナンバーでもある57曲目「doku-haku」はメンバー14人の会議中に録音された肉声をサンプリングした32分渾身の一曲。曲終盤、リフに合わせて繰り返し再生される叫蔵 (Vo.) の眩き「それほとんどマンドラゴラやん」には胸を打たれる。



@osicomman

9 伝説の屋久島ライブから2年、デスヘル渾身の3rdは、壮大なストリングスで幕を開ける、珠玉のポップアルバム。たゆたうギターのアルペジオに絡みつく、嗚咽のようなボーカルの強度は、齢23にして、孤高の域。江古田から、世界へ。なお、来月7日には同タイトルの小説がドロップされる。必読。



@phonda

8 独特でクセのある文体ではあるが、冒頭はインタビュー形式で進行するので読みやすい。4章の「呪術編」からの展開は冗談抜きの恐ろしさ。The Death Helmetsが同タイトルのアルバムをレコーディング中に、現場で即興的に描かれたらしい。ポチは第84回ヌーカラム賞を受賞。納得。



@cheapeer

4 視聴者参加型アスレチック番組「benkei」の同名アトラクションがいよいよブック化。「ひっこぬけ！大爆発！ぶっこぬけ！己自身！」というキャッチフレーズが印象的。しかしながら、半分を読み終えたあたりからの「風雲たけ〇城」感は残念でならない。懐古趣味の方には強く勧められるのだが...



@kfnks

7 デスヘルの同名アルバムを元にメンバーのポチ（G）が執筆した恋愛小説。メンバーが作中にも登場するのが特徴。盛岡に住む男女の恋愛が美しい情景と共に静かに描かれる内容だが、なぜか作中で叫蔵（Vo）だけ3回肥溜めに落ち、5回牛に嚙られ、7回ダンプに轢かれるという凄惨な描写が連続する。



@osicomman

7 「何か」から「Escape」したい／している／された人々とその暮らしを鮮やかな筆致で描いた青春群像小説。独特の言語感覚は、新たな時代の到来を予感させる。特に、田舎の少年が夏休みの宿題から「Escape」しようとするところは、世界の文学史に刻まれるべき名シーン。将来が楽しみ。



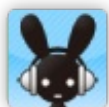
@phonda

8 葬儀屋のアルバイトもこなす、差乙女ハズレの描き下ろし。ペットショップで働く人々を、登場人物たちのトラウマを通して描いたドラマ。第1話で死んだ猫のエピソードが各話に影響しており、最終話で語られる本当の死因にあなたは何を感じるだろう。ギャグ漫画なので1,284ページ一気に読める。



@cheapeer

9 ドス黒い甲冑に身を包んだ真っ白い猫が薄汚い人間社会を皮肉っていく『はなやかなねこ』シリーズの完結編。今回はその鎧のベールに包まれた猫の素顔が垣間見えるのか！？「黒薔薇のエムブレム」の謎が明かされるのか！？キメ台詞「名は既にある」が予定調和的かなという意味で無念のマイナス1点。



@kfnks

9 強力な魔法を使う「はなや化」モードと圧倒的スピードで敵を翻弄する「かるや化」モード、二種類のバトルモードを使い分ける魔法少女ネネ・コンドリアン（通称ねこ）が、マスターした者は魔法神と同化できると言われる伝説のモード「すこや化」を目指して冒険するファンタジーバトル漫画の大傑作！



@osicomman

9 世界有数の大企業の社長令嬢、猫山エミ。幼い頃から後を継ぐための英才教育を受けてきた彼女には夢があった。それは「ニンジャ」になること。周囲からの過度の期待や嫉妬を軽やかに受け流し、夢だけを見つめて輝き続ける彼女のまっすぐな瞳は、そのまま我々読者を射抜く。文句なしの傑作ギャグ。



@phonda

4 「暮らしに役立つ面白ギャグ」でおなじみ大山之川靖幸氏の、実体験を元にした自己啓発本。タイトルからも分かる通り、読者を卑下した姿勢で書かれており、受け入れ難い。後半はほとんど「無視しろ！！」の一点張りである。同梱のCDに収められた本人のラップがニコニコ動画で話題となっている。



@cheapeer

4 歌って踊れるコメンテーター、大山之川氏のエッセイ風啓発本。サブカル雑誌『ブラックオン』編集長時代の暴露本とも言える内容。この独特の語り口調がファンにはたまらないのかも？「高い次元に昇りなさいよ！」「ミイラになっちゃうわよ！」というTVでもおなじみのギャグが要所で繰り出される。



@kfnks

10 本を開いた瞬間、力強いお叱りの言葉が私の心を打ち、気がつくくと涙が溢れていました。今ではすっかり先生に夢中です。金言（先生のお言葉の事です！）が拝聴できるCDはいつも持ち歩いています！ありがとうございます！※先週巻末で紹介している壺を注文させて頂きました、いまから楽しみです。



@osicomman

2 挑発的なタイトルに惹かれて買って見たが、名前負けである。年賀状、録りためたテレビ番組、腐れ縁などバラエティ豊かな目次は楽しいが、肝心の内容は「そんなもんさっさと捨てろ！」ばかり。それができれば苦労しないぜ。しかし、腹が立つと同時に、羨ましく思うのもまた事実。それがまた腹立つ。



@phonda

6 「パーティーゲーム+推理アドベンチャー」という試みは斬新。しかし、ストーリーと各イベントとの整合性がなく、最後の犯人当てがコマンドの総当たり作業になってしまっている。サイコロを振る前に必ず入る「パ～ラダ～イス！」というかけ声の説明が一切ないが、あれがザキヤマ先生なのだろうか。



@cheapeer

8 狙っているのか天然なのか紙一重のク○ゲー系良作といった感じ。ミニゲームの「テトリス」という落ちモノパズルゲームのバカバカしさには脱帽。テトリスとほぼ同じシステムで、正方形の落下物は豆腐、「テトリス棒」は、きりたんぽ。その他のものは全て「ゼリー」という設定。非常にバカでよい。



@kfnks

7 ザキヤマ先生を操作して古墳内部を探索する本格アクション。古墳は円墳・方墳から始まり、レベルが上がると前方後円墳や八角墳などの古墳まで挑戦可能。死者が葬られた埋葬施設への到達が目的となる。酸素メーターが減るとチアノーゼにより当時の奴隷達に襲われる幻覚が見え始めるシステムは斬新。



@osicomman

6 ザキヤマシリーズ第7弾。第1作の学校から、首都→牧場→遊園地→書齋→雪山ときて次が古墳とは、相変わらずワケのわからない舞台設定である。ゲーム自体はマリオライクな横スクロールのアクション。シリーズのファンなら安心して楽しめるが、新鮮味は薄い。会社の歴史から見ても、次作が正念場。



@phonda

7 軍用犬の訓練で使用されていただけのことはあり、効果は折り紙つき。医学的に問題がないことも確認済みなので、吠えグセのある愛犬にオススメです。「ほがらか」というよりは「だるい」という状態になるため、心情的な部分から常用がはばかれる。それと人間は絶対に食べてはいけないので要注意！



@cheapeer

7 大ヒットしたキャットフード「まったりボール」の姉妹品。過剰分泌されがちなドーパミンを抑制する成分が配合されているとのこと。無理なく無駄なくワンちゃんほがらか。かくいう私も一本試食してみましたが、なかなかイケる！風味は強いが後味さっぱり。「赤の明朗味」と「青の快活味」の二種類。



@kfnks

2 「やんちゃなワンちゃん食べればほがらか」のフレーズで発売され、爆発的な売れゆきを記録したドッグフード。原因不明のうつ病を患う犬が大量発生し、所謂「犬の権利問題」として議論を呼んだことは記憶に新しい。成分に大麻が含有されているとの噂もあり現在訴訟中。購入は控えた方が賢明だろう。



@osicomman

7 直径約1.5cm・長さ約18cmほどの茶色い棒状の物体で、全体的につやつやしている。触ると思いのほかやわらかく、人肌のような温もりも感じる。試しに両端を持って曲げてみたが、しなるだけで折れる気配はない。パッケージには「火であぶると7倍うまいぞ」とあるので、近いうちに試したい。



@phonda

6 ハーレーダビッドソンを日本刀で斬るCMでおなじみの温泉リゾート「スパ玉花川」の2号店がオープン。バイクに乗ったまま入浴ができるという、体験して初めて理解できるタイプの新次元サービスである。カラオケが異常に盛り上がる！ドライバー待ちの時間がかなり長いため、あえなくマイナス4点。



@cheapeer

9 創業300年、宮内庁御用達の「うどんの玉花川」がこの度、新装オープン！店主の蜻蛉源五郎（92）氏曰く、この「スパ」は「スパンコール」の略とのこと。伝統的な日本建築にミラーボールという斬新な取り合わせ。宴会コースは今なら1人700円から。因みにそば湯飲み放題・薬味食べ放題つき。



@kfnks

7 日本国内で唯一のスーパーボール専門店であり、マニア達から「聖地（サンクチュアリ）」と呼ばれている玩具店「スパ玉花川」。毎年元旦になると本店近くの浅間神社にて、50000個のスーパーボールを大階段の最上部から流し落とす「玉責め」の儀式が行われ、毎年100人を越える死傷者が出る。



@osicomman

1 江戸中期から続く老舗旅館を、空気の読めない外資がフルリニューアル。読者諸兄は、地下鉄や工事現場などで、青空や木々などが描かれた壁を見たことがあるだろうか。初めてあれを目にした時の違和感と失望を、ギュッギュッギュッギュッギュッと濃縮したような印象。終わりの始まりとはこのことである。



@phonda

10 ABP2400のエントリーモデルだが、さすが名門Cigrolサウンド！シリーズ直系の、痒いところに手が届く音色の数々。取り込んだ画像や声、入力したキーワードを解析して、自動で作詞・作曲してくれる機能が凄い！Zeusに曲を書き出して持ち運べば、音楽を買う生活にはもう戻れない！



@cheapeer

9 "音色に溺れろ！"とのコピーに象徴されるように、とにかくプリセットパターンが豊富且つ秀逸。「すきま風」、「窓際族の憂い」、「給食系の事情」、「古女房、カップ焼きそばのお湯を捨てる」、など今まで聴いたことのない音のパレット。電子音はちょっと...と敬遠していたあなたにこそ薦めたい！



@kfnks

7 満を持してヤマハが打ち出したシンセサイザーの革命児。初心に立ち戻り人間工学の見地から研究を重ねた結果、従来のキー配列から黒色鍵盤を完全に取り除くことに成功。白色鍵盤をタッチスクリーンにすることで音程をミリ単位で調節できる仕様へと昇華させた。フジ子ヘミング専用のワンオフモデル。



@osicomman

8 産学協同プロジェクト「Akabane Best Practice」の製品化第1弾。ラジオ付きシャンプーハットで一生を風靡したマコトシマダが監修しており、防水性能に関しては折り紙付き。楽器としての性能もかなりのもので、筆者はすでにライブでも使用している。夏の浜辺はこれでキメろ！



@phonda

9 日本語しか話せない筆者が、異国の地で「連想ゲーム」的にラーメンを作ってもらふコーナーがバカバカしい感動を呼ぶ。依頼されたフランスの学者が、本場中国へラーメン作りの修行に行ってしまう、戻ってくるまでに2年かかった話など、珠玉のルポ集だけでも読む価値アリ！ラーメン文化おそるべし！



@cheapeer

8 冒頭の「B級とは何か」という対談から引き込まれてしまう。ラーメン格闘家として大活躍の「ウisper仲邑」氏の「ラーメンは稲妻なり」というコクのある論に圧倒される。それを踏まえてのB級グルメ総合研究開発調査機構・代表の「横袋二郎（よこぶくろじろう）」氏のコメントもコシがあつて◎。



@kfnks

8 ラーメンを食べ過ぎて「ラーメン憎し」の次元に到達する道程を書いたエッセイ『一回転してラーメンが嫌い』で100万冊を売り上げた著者の第二弾。前作で「美味しいもの程不味く感じる」という名言を残した著者がどのようにして「B級こそ至高」という次元にたどり着いたのかを綴る魂のガイド本！



@osicomman

10 本書の「B級ラーメン」とは「ラーメン屋のイチオシじゃない"ラーメン"のこと。人気つけ麺店の塩ラーメンなど、なかなか注文しないであろうメニューばかり紹介している。店主への「なぜこのメニューがあるのか」インタビューも面白い。広大なラーメンワールドを迷わず進む為の最高のガイド。